

「けやき俳句の会」会報（第百八十六回）

平成三十年十二月

第百八十六回句会記録

★日時 十二月五日

★場所 けやき学習室

（参加者二十三名）

★真樹先生投句

②新色の口紅ためす神の留守

冬の新月扉のぎしと開く

マフラー巻く新手の浅間風かな

★真樹先生選句（◎は特選）

◎◎新聞紙に泥ごと包まれ届く葱

◎◎釣舟の陰に日向に浮寝鳥

◎◎生き方を風に委せる木の葉雨

◎◎芭蕉忌や古寺の風雅を巡りけり

◎◎冬の霧湖に数多の鳥包み

◎◎落葉踏む木々の吐息と思いつつ

◎◎冬めける新居馴染まぬ庭の木々

◎◎新元号へさまざま思ふ年の暮

◎◎藪陰で香放ちし枇杷の花

◎◎上総掘りの技や久留里の新酒酌む

◎◎鱒起し沖眺め待つ漁師達

◎◎石路の花維新を駆けし志士の家

★会員互選句

◎◎灯ともれば佛もおわす寒夜かな

◎◎凧や気楽な葉っぱの一人旅

◎◎酉の市スマホ片手に値切る客

◎◎結界はまばゆき銀杏落葉かな

◎◎日向ぼこ終活ノート閉じたまま

◎◎幟立つ安房の新海苔駅通り

◎◎晴れ着の子拍手に照れる七五三

◎◎だんらんのとろけそうなる冬野菜

③新米を護る米びつ鷹の爪

③新巻の塩の辛さの懐かしさ

②九州場所突きの一手で優勝す

②地震ありて粕汁温し北の国

②底冷えやついで足早の店巡り

②柿落葉始末は風に任せたり

②利根の水二拍子で搔くかいつぶり

①日短や新聞小説拾い読み

①小春日や波と遊べる鷗いて

①赤ケツト巻いて乗り込む人力車

①冬の海風波うるこ残照かな

①仏壇に新米供へ夫偲ぶ

①寒禽の群れて猛しや餌に向い

①木洩れ日に枯葉と猫と乳母車

①茶の花や侘寂落ちる隣家より

①新郎も新婦も今や日向ぼこ

①冬新宿あずさ最終の北ア行き

①田舎より届く新米噛み締る

①寒燈や命の電話有る限り

①小春日や橋を渡れば新世界

①新酒酌む相手四合我二合

①オリオンが幽かに光る街に居て

①花柢パイプオルガン聴く庭に

①大根煮る匂ひ届くや二階まで

①新雪に合う口紅を付けて出る

東洋

清明

誠

秋雲

高志

清明

かな太

藍愛

藍愛

藍愛

而今

而今

真弓

真弓

一華

一華

青嵐

誠

夢城

冬水

蕉哉

蕉哉

秋雲

真弓

東洋

かな太

【次回開催】

★日時・一月九日（水）

★場所・けやき学習室

★提出句・兼題「時」を含め三句